



2025年3月期 決算説明資料

データセクション株式会社

2025年5月15日

証券コード：3905



1. 2025年3月期実績
2. 2025年3月期 計画・実績差
3. 2026年3月期 計画

1. 2025年3月期実績

- ・既存事業の体質改善、新規AIデータセンター事業構築の両方にフォーカス
- ・既存事業に関しては、国内事業全領域における受注の堅調な推移に加え、7月1日付で完全子会社化したMSS社の寄与により、増収（前年比+32.0%）

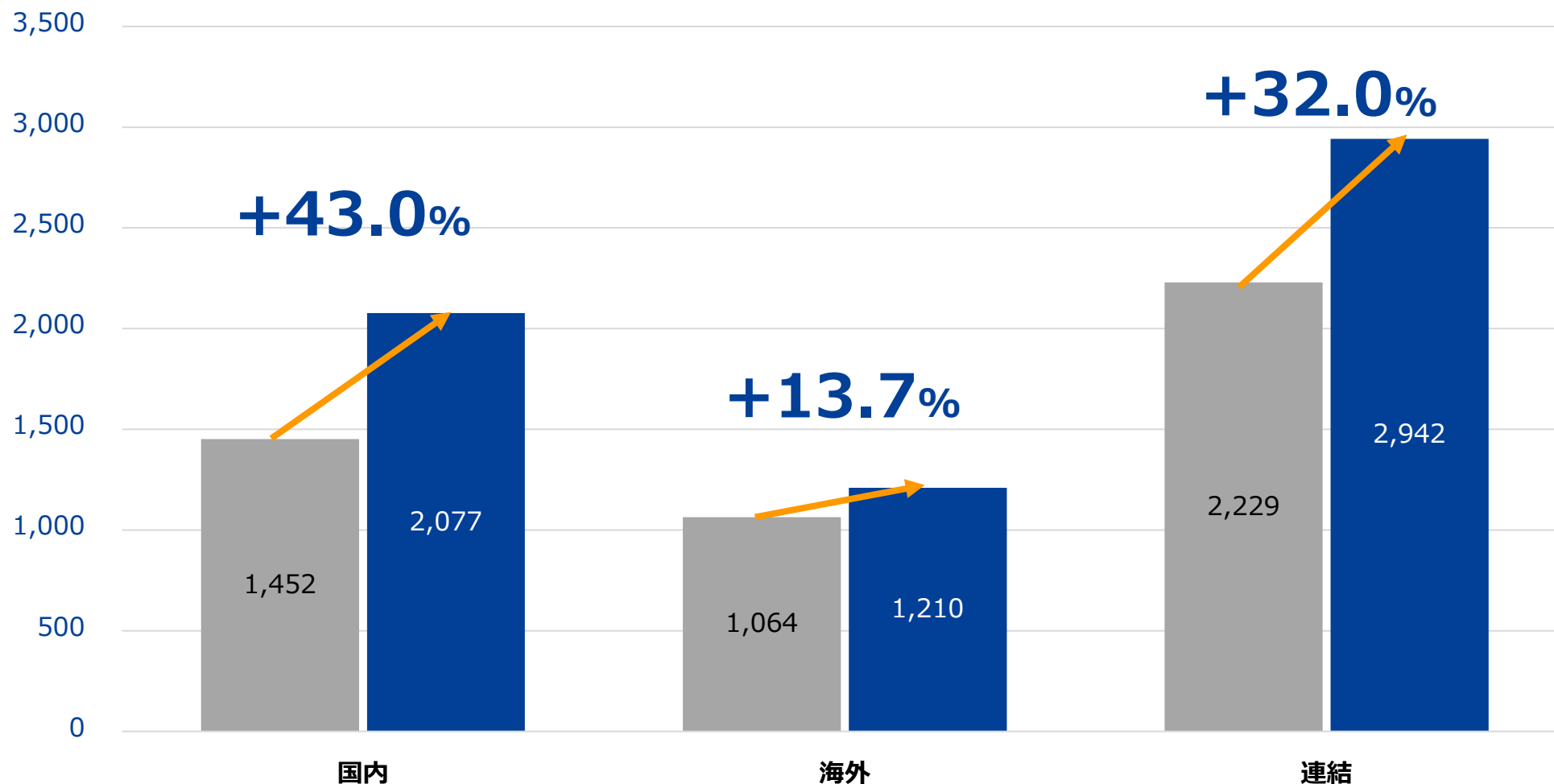
(百万円)	25年3月期 実績値	前年対比	
		実績	差分
売上高	2,942	2,229	+713
営業利益	▲496	▲216	▲279
(新規事業関連費用除く 営業利益)	▲119	▲216	+96
調整後 EBITDA*	▲169	47	▲216
(新規事業関連費用除く 調整後EBITDA)	206	47	+159
経常利益	▲613	▲235	▲378
親会社純利益	▲654	▲1,251	+597

(*) 調整後EBITDA：営業利益＋減価償却費＋無形固定資産償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

- ・ 国内・海外ともに成長を継続
- ・ 既存事業のポートフォリオ転換計画どおり、国内事業が成長を牽引

（単位：百万円）

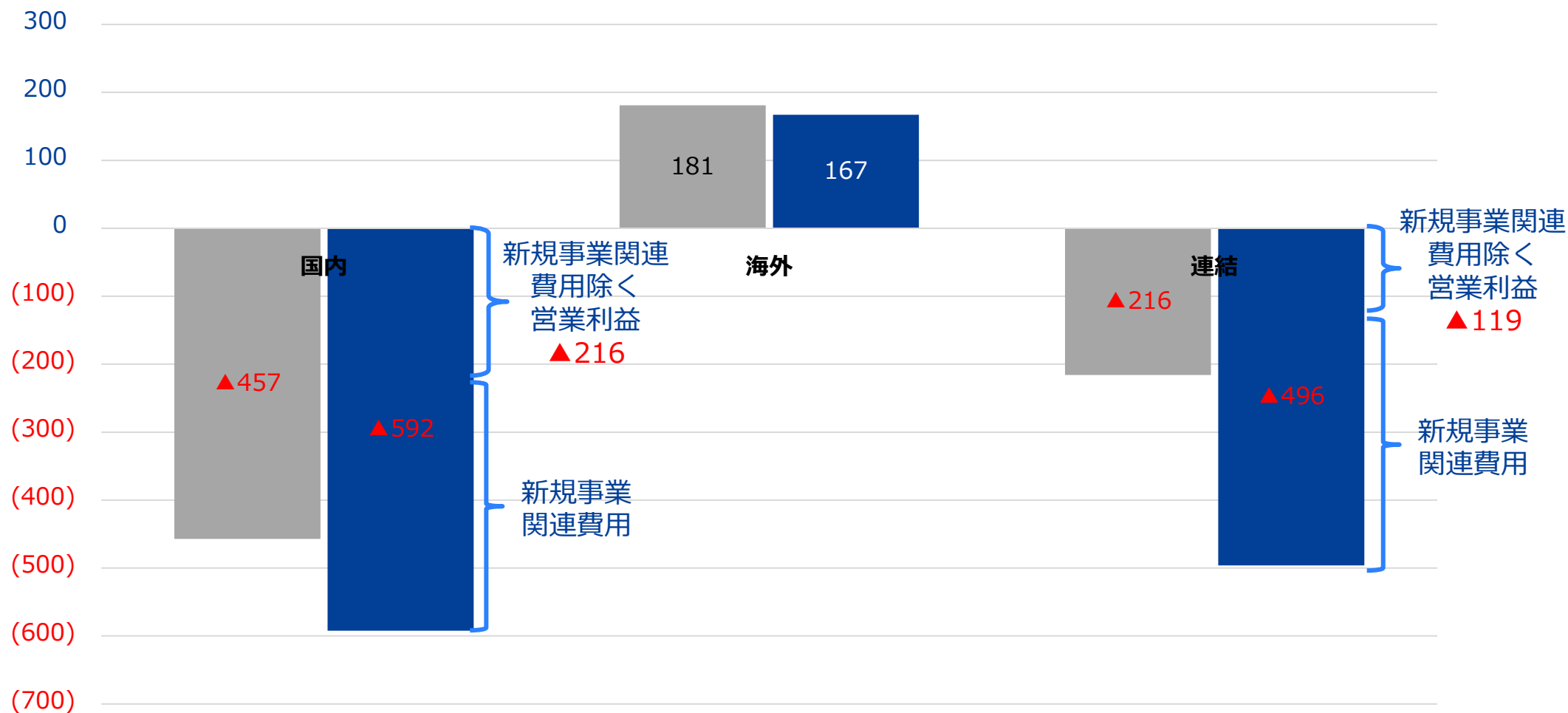
■ 24年3月期 ■ 25年3月期



- ・ AIデータセンター事業において、業績予想に織り込んでいた「ファンド投資型」より収益性の高い「直接投資型」の案件を優先し、25年3月期はファンド運営者報酬（以下、「GP報酬」）をあげず
- ・ 海外は、過年度のソフトウェア開発の償却負担を要因に減益となるも、計画の範囲内

（単位：百万円）

■ 24年3月期 ■ 25年3月期

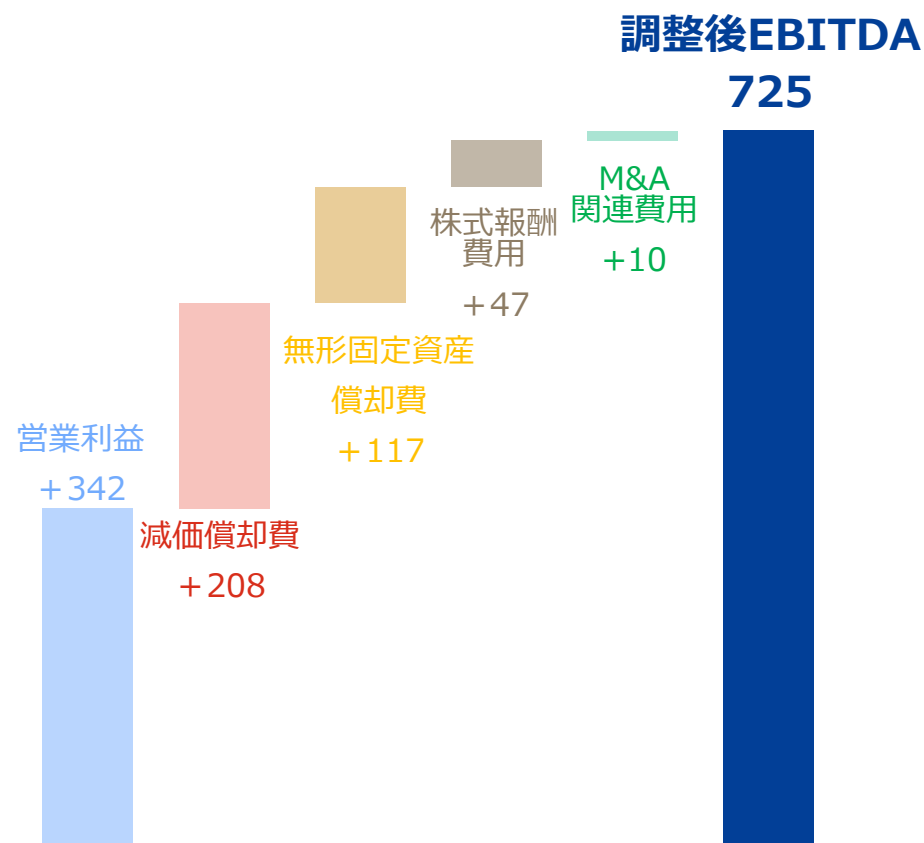


・実質的なCF創出力を示す調整後EBITDAは、年度ベースで赤字（後述）

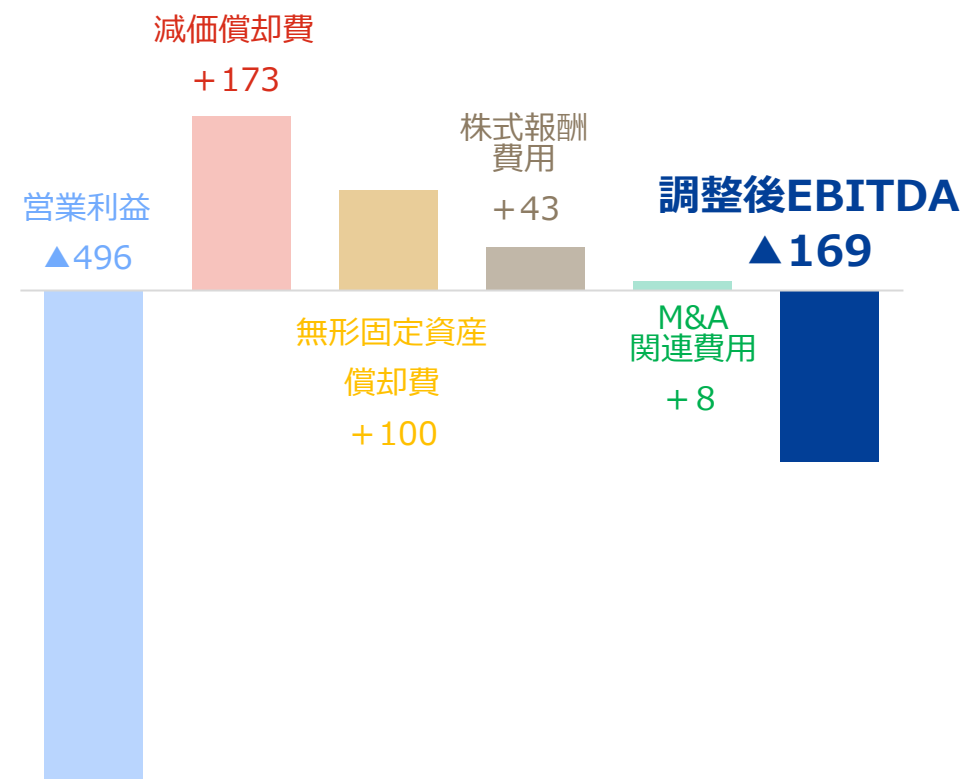
※調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A 関連費用

<25年3月期 上方修正後計画>

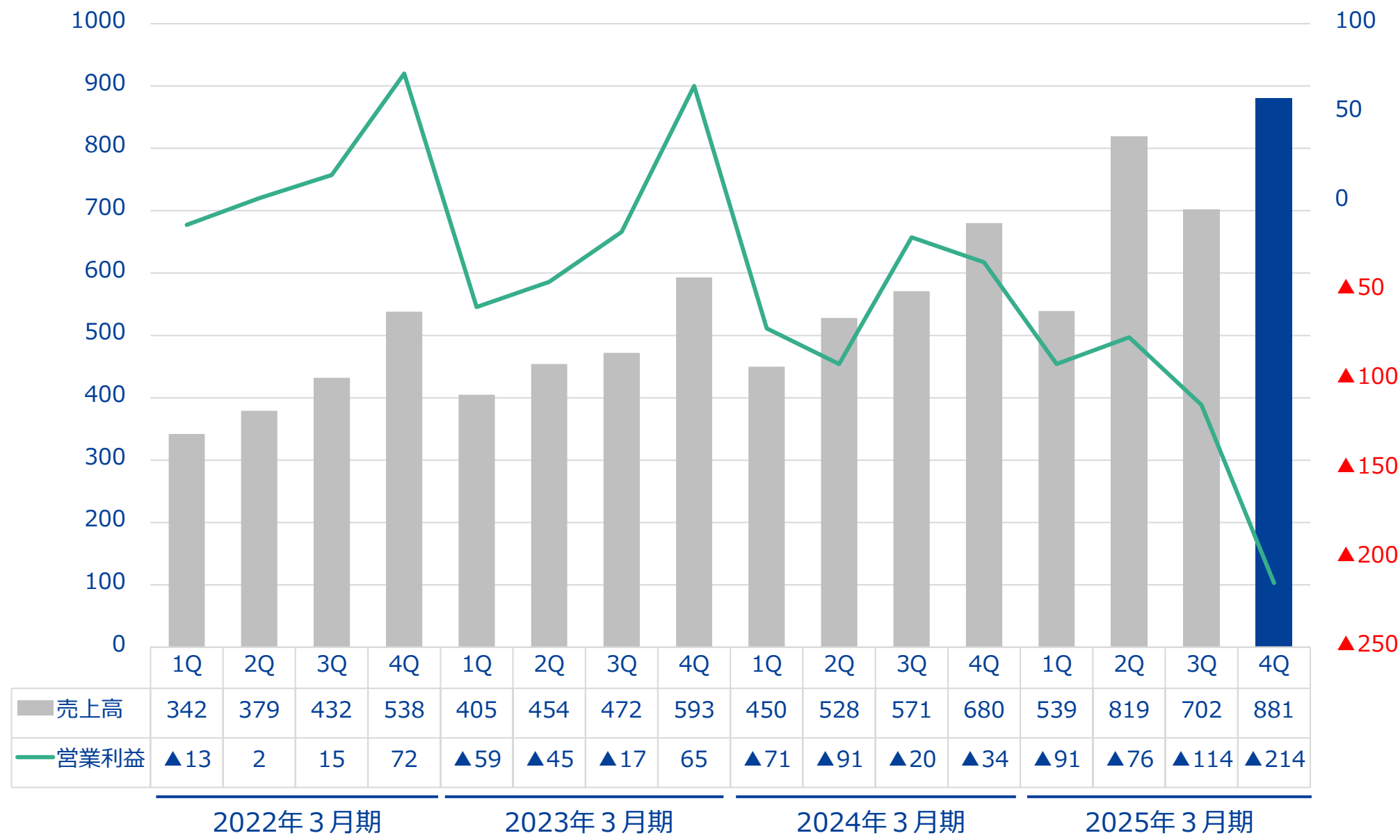
(単位：百万円)



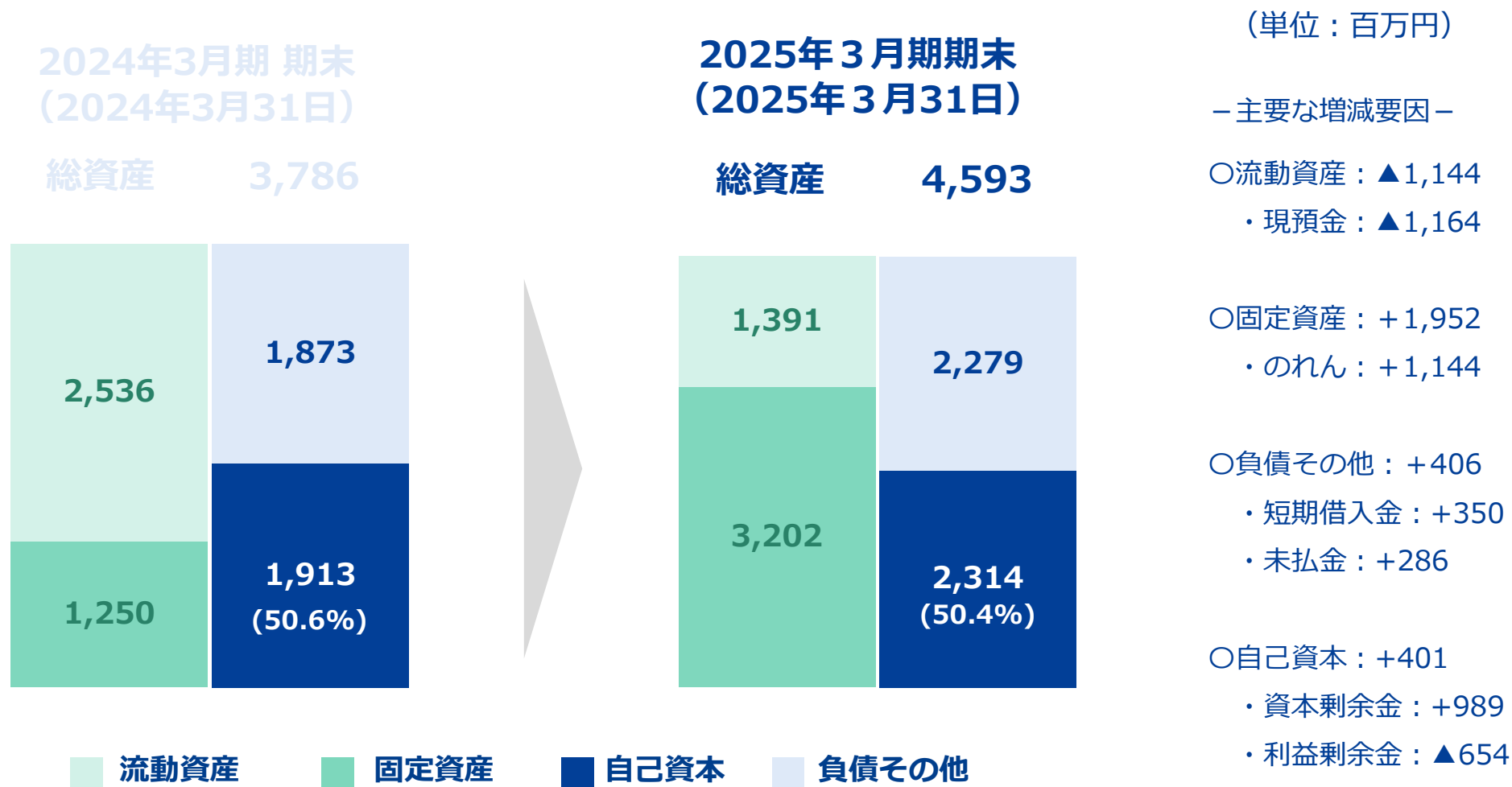
<25年3月期 実績>



（単位：百万円）



- 7月1日付で買収したMSS社ののれんを計上（BS連結：1Q末、PL連結：2Q初）した関係で、総資産が増加

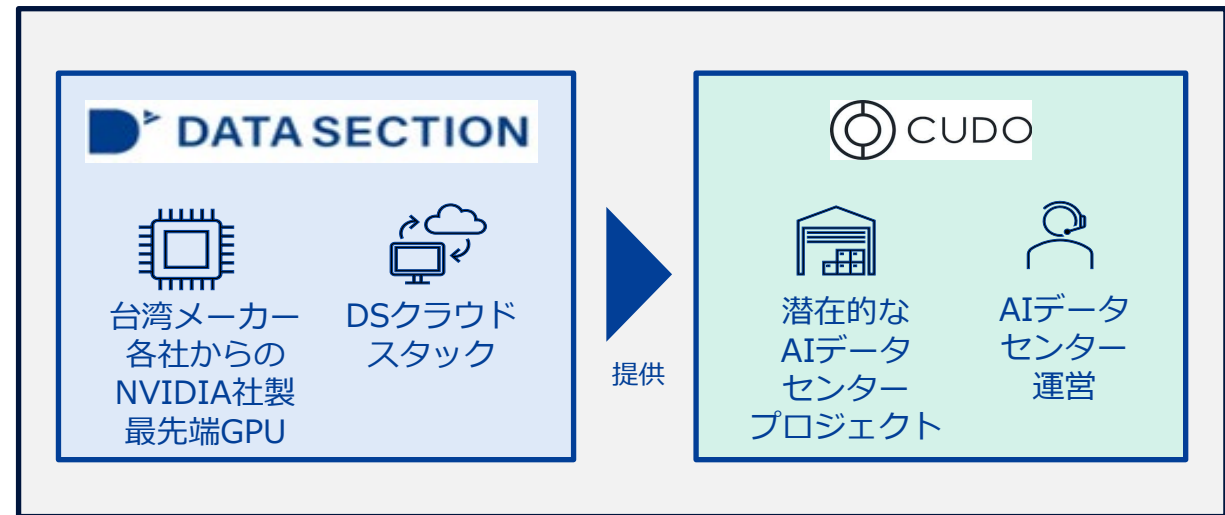


- ・ NVIDIA社認定のAIパートナー（NVIDIA Cloud Partner、以下「NCP」）のCUDO Ventures（以下「CUDO社」）とAIデータセンター事業にかかる業務提携契約を締結、両者間の資本提携についても協議中
- ・ 本提携により、NVIDIA社製最先端GPU確保と、当社のDSクラウドスタックの早期提供が可能に

CUDO社の概要

- ・ 英国所在
- ・ NVIDIA社認定のNCPとして、AIクラウドスタックとデータセンターインフラにの高い技術力を有する
- ・ AI用に何千ものNVIDIA社のGPUを米国、中東・アフリカ、ヨーロッパ、アジアで管理・運用しており、GPUaaS、ストレージ、ネットワーキング、マネージドサービス提供
- ・ ２０２４年５月にNCP認定を受けて以来、AIデータセンターの業容拡大が加速

本提携の内容



- ・ CUDOとの提携によりAIデータセンターの稼働へ向けた必須要素全てが早期に揃う
- ・ CUDO社が運営を行う潜在的プロジェクトに、NVIDIA社製最先端GPUの確保、当社のDSクラウドスタックを早期に提供可能に

- ・ 大規模クラスターのAIデータセンターをハイパースケーラーと同様に運用可能とする、クラウドスタックの開発・構築を推進
- ・ 顧客によるテストを段階的に行い、３月末から正式ローンチ
- ・ DSの独自開発によるクラウド・スタックの名称は、『TAIZA』に決定

■ DSクラウドスタックの名称
『TAIZA』

■ 主な機能

- ・ AI向け大規模GPUクラスターの運用最適化アルゴリズム
- ・ 様々なAIモデルのAPI連携による推論
- ・ プライベートクラウド上での運用 など

2. 2025年3月期 計画・実績差

- ・ AIデータセンター事業において、GP報酬による収益計上が見込まれる「ファンド投資型」を当初想定していたが、より収益性の高い「直接投資型」の案件を優先
- ・ 直接投資型の案件において当初想定していたGP報酬を上回るテスト収益の計上を見込んでいたものの、顧客との交渉の結果、案件稼働時からの収益計上になり、新規事業分の先行投資が収益を圧迫する形に
- ・ 但し、これにより26年3月期は、より収益性の高い「直接投資型」の立ち上がりを見込む

(百万円)	25年3月期 実績	25年3月期業績予想		実績の差分	
		当初	8月14日 修正後	金額	増減率
売上高	2,942	2,650	3,312	▲370	▲11.2%
営業利益	▲496	80	342	▲838	—
調整後EBITDA	▲169	425	725	▲894	—
経常利益	▲613	55	317	▲930	—
親会社純利益	▲654	17	217	▲881	—

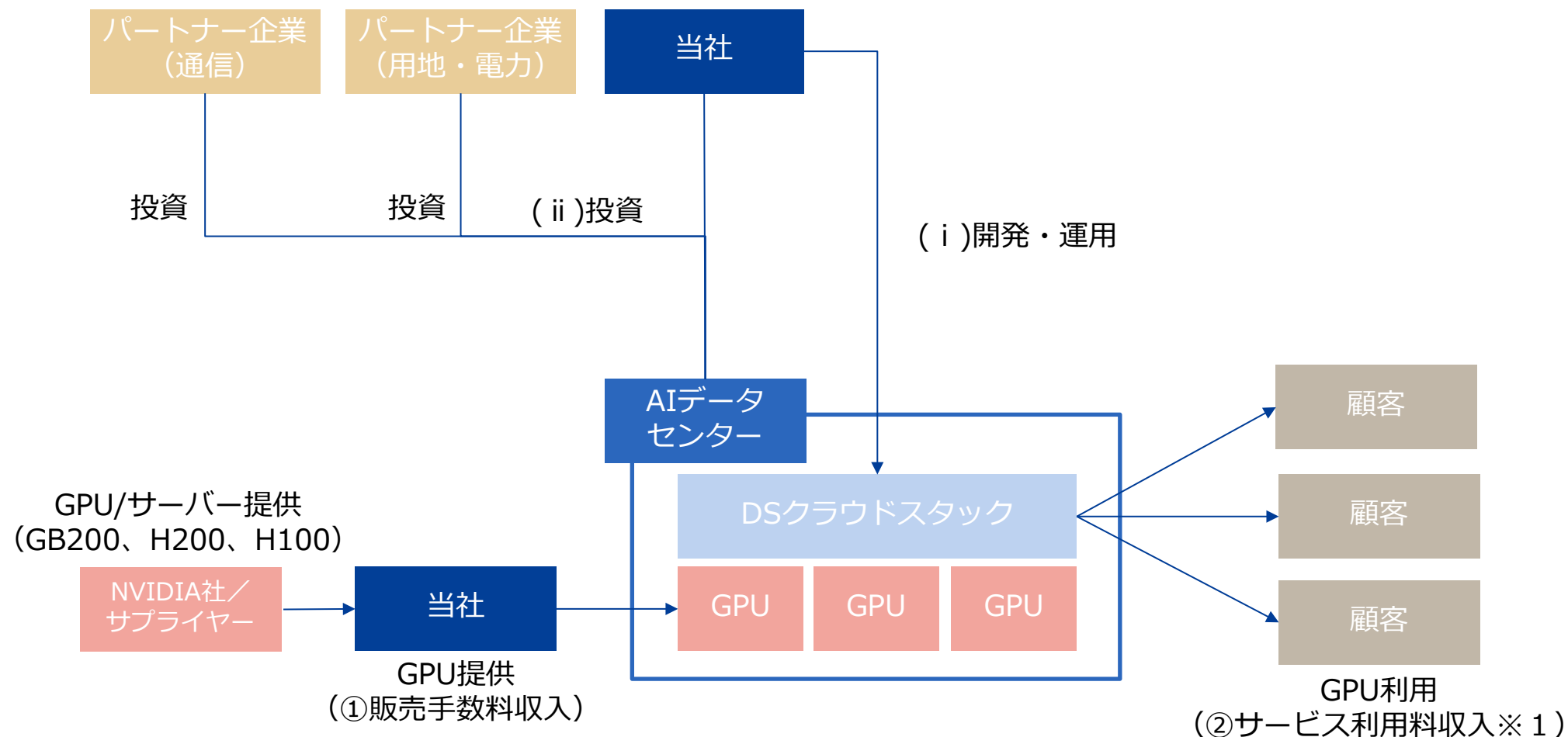
- ・ DS AI Infrastructure Global Investment Fundの設立準備が進捗し、期中の事業開始・GP報酬の収受が見込まれること及び、MSS社の連結子会社化による業績影響見直しによる8月14日開示の業績見通しから修正なし

(百万円)	24年3月期 実績	25年3月期業績予想			
		当初	8月14日 修正後	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,229	2,650	3,312	+ 1,083	18.9%
営業利益	▲216	80	342	+ 558	—
調整後EBITDA	47	425	725	+ 678	797.0%
経常利益	▲235	55	317	+ 552	—
親会社純利益	▲1,261	17	217	+ 1,478	—

(百万円)	当初計画	修正計画	増減	補足説明
売上高	2,650	3,312	+662	・ GP報酬：4Qからアセットの50%の運用開始 (@145円) GP報酬の50%を当社グループで収受と想定 売上高：USD2B×@145円×1/4Q×報酬水準2% ×当社グループ収受50%×アセット掛目50% = 362.5M 営業利益：売上高に20%のコストがかかる想定 = 362.5M×80% = 290M ・ MSS寄与：見込増加分を反映 現状見込 売上高：750M (当初+300M) 営業利益：10M (当初+10M) のれん：12年償却とし算出 (当初+38M) * 負担増
営業利益	80	342	+262	
調整後 EBITDA	425	725	+300	
経常利益	55	317	+262	・ 借入減少と為替変動減少 (株主ローン相殺のため) により、 営業外は変更せず
親会社 純利益	17	217	+200	・ 増益に合わせトータルで実効税率30%に調整

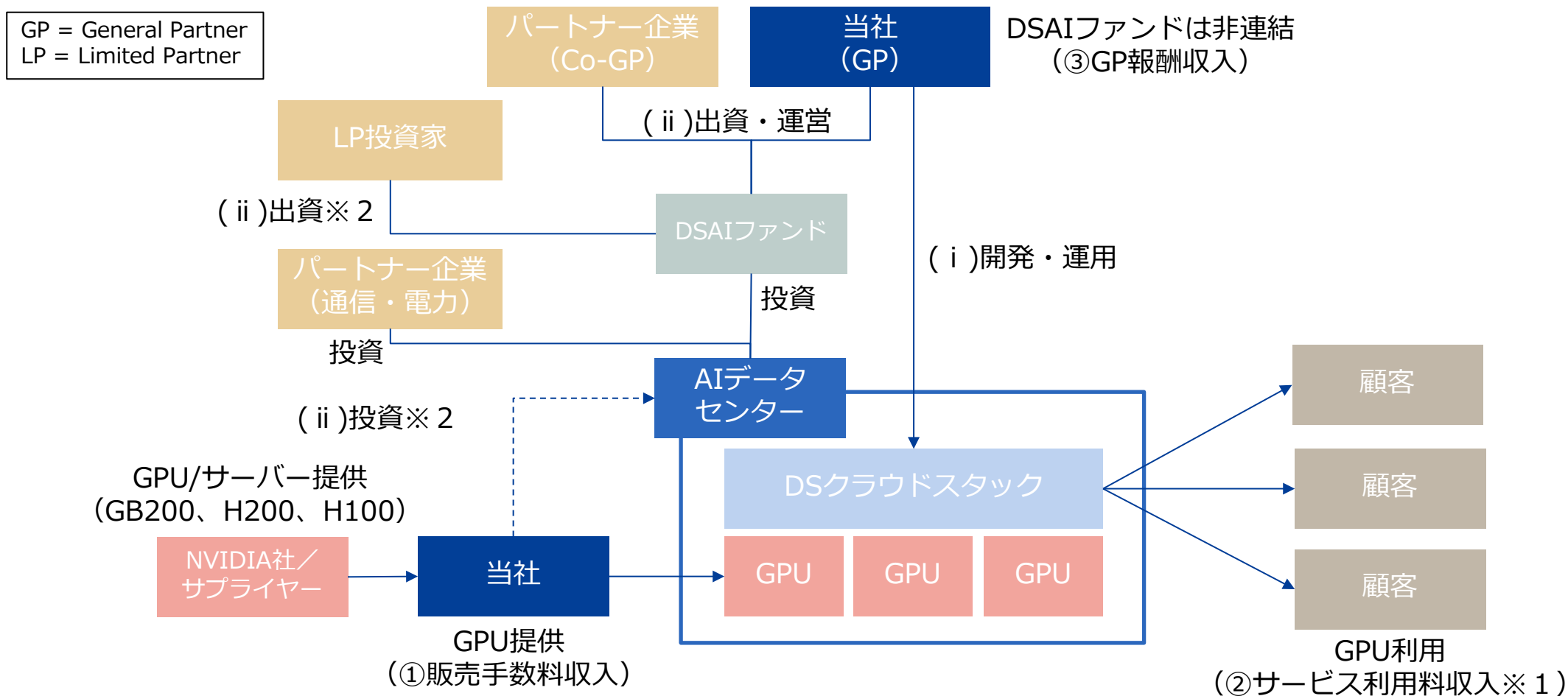
- DS AI Infrastructure Global Investment Fundの設立準備の進捗により、売上高362百万円を今期に計上する見込み
- MSSの連結子会社化により、売上高が300百万円上回見込み
- 連結売上高は、前回発表予想を662百万円上回る3,312百万円となる見込み

- ・ AIデータセンターを直接投資型の場合は、2パターンの売上構造
- ・ AIデータセンター投資からのリターン



※ 1 顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェア

- ・ AIデータセンターをファンドから支援する場合は、3パターンの売上構造
- ・ DSAIファンド投資からのリターン



- ※1 顧客のGPU利用によるサービス利用料収入は、当社とAIデータセンターでシェア
- ※2 当社が直接投資するAIデータセンターもDSAIファンドの投資対象となる可能性あり

3. 2026年3月期 計画

- ・ いよいよAIデータセンター事業が立ち上がり、新たな成長フェーズ
- ・ AIデータセンターの案件毎の収益規模が大きく、業績に与える影響を踏まえて、現時点で業績予想は非開示
- ・ 契約協議中 1 案件（日本国内でNVIDIA社製のB200を5,000個（サーバー625台））を中心に、本年度内に立ち上げ予定の複数案件が進んでいるが、詳細がそれぞれ確定し、適正かつ合理的な数値の算出が可能となった段階で業績予想は開示および都度修正
- ・ また、上記案件に加えて、同規模の1案件も契約協議中。更なる大型案件を含む、国内外での進行中の複数案件あり（次ページ参照）

(百万円)	25年3月期 実績	26年 3 月期業績予想		
		金額	差分 (金額)	差分 (増減率)
売上高	2,942	非開示		
営業利益	▲496			
調整後EBITDA	▲169			
経常利益	▲613			
親会社純利益	▲654			

(*) 調整後EBITDA : 営業利益 + 減価償却費 + 無形固定資産償却費 + 株式報酬費用 + M&A関連費用

- ・ **グローバルでの旺盛な需要を受け、年度内に、国内外で複数案件を同時に進め、今期中に業界における圧倒的な競争優位性を確立していく。今後、GB200の大規模導入も進め、AIスーパークラスターの構築を目指す**

- プロジェクトA： B200 5,000個（契約協議中）
- プロジェクトB： B200 5,000個（契約協議中）
- プロジェクトC： B200 2万～4万個規模
- プロジェクトD： GB200 1,000ラック規模（7万個）
- プロジェクトE： GB200 1500ラック規模（10万個）
- プロジェクトF： . . .
などの案件に取り組み中

（ご参考）

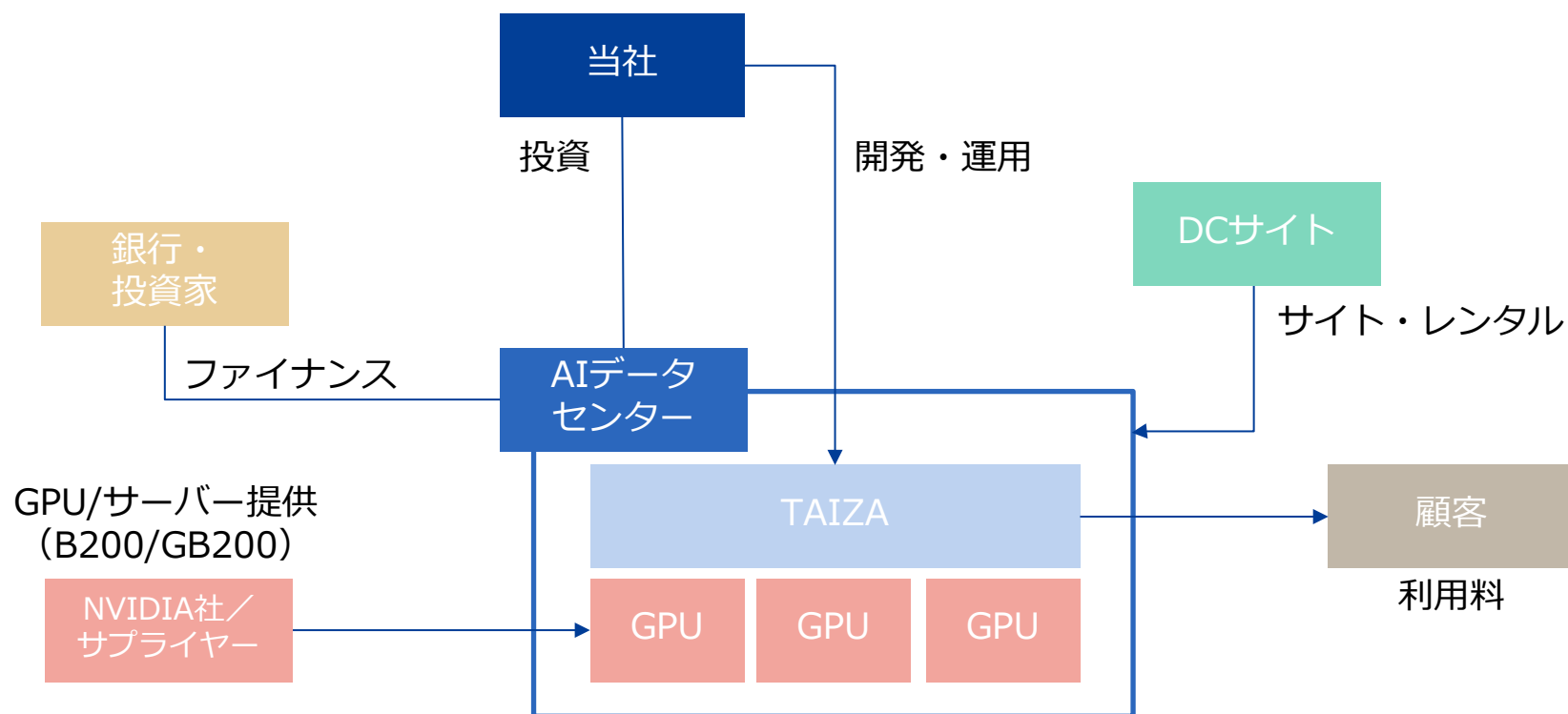
さくらインターネット株式会社：高火力PHY（NVIDIAのGPUを搭載した物理的なサーバー 1 台を丸ごと提供するサービス）
NVIDIA H100 Tensor コアGPU × 8 の3年間コミット使用料：2,436,896円/月 ※H100 1 個あたり304,612円/月*

B200は、日本でも導入が進んでいるH100と比較して、3 倍のトレーニングパフォーマンス、15倍の推論パフォーマンスを実現**

* 出典：さくらインターネット株式会社のウェブサイト「さくらの高火力GPUクラウド」紹介ページ

** 出典：NVIDIAのウェブサイト「NVIDIA DGX B200」紹介ページ

- ・ 今期（26年3月期）予想に含む第1号のAIデータセンター案件は「直接投資型」を想定
- ・ 当社の計上する収益は「TAIZAの利用料」となる
- ・ 一方で、アップフロントでの顧客から一部代金受け取りやプロジェクトに対する融資確保等によりAIデータセンター構築費を自前で確保することで、収益を最大化。外部資金を活用する「ファンド投資型」よりも当社収益の最大化が可能。そのため第1号案件は「直接投資型」である、以下のストラクチャーを採用
- ・ 今後、顧客、案件特性、案件規模、パートナーなどに応じて、柔軟にAI事業ストラクチャーを検討



- ・世界的にGPUへの需要が高まる環境下において、GPU獲得競争は一段と激化している。一方で、日本企業は、GPU獲得競争において後れを取り、国内AIインフラ構築は、未だ期待された成果を見せていない
そのなか、当社第1号となるAIデータセンターでは、NVIDIA製次世代GPUアーキテクチャ「Blackwell」を採用したB200を5,000個配備することで、現段階で、日本国内そしてアジアにおいても最大規模のパフォーマンスを有するAIデータセンター構築を予定
- ・B200は、日本でも導入が進んでいるH100と比較して、3倍のトレーニングパフォーマンス、15倍の推論パフォーマンスを実現*
- ・今期、積極的にB200及びGB200の導入を進めるが、プロジェクトを構成する様々な要因から、大規模クラスターの構築を実現できるのは、日本企業としては当社のみ（サプライヤーとのパートナーシップ戦略により、B200を5,000個確保可能な調達力は、国内企業としては圧倒的）
- ・大規模クラスターの運用を可能とする「TAIZA」が、業界での優位性を更にけん引。「TAIZA」はグローバル顧客によるテストを経て、高い評価を受けている

特殊な地政学的環境下において、日本で世界規模のAIインフラを構築することで、デジタル赤字を改善し、あらゆるセクターでの経済成長を後押しする

* 出典：NVIDIAのウェブサイト「NVIDIA DGX B200」紹介ページ

データセクション株式会社

ir@datasection.co.jp
03-6427-2565

〒141-0031

東京都品川区西五反田 1 丁目 3 - 8 五反田PLACE 8階

<https://www.datasection.co.jp>

注意事項

- 本資料は投資家の参考に資するため、当社の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 上記の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しで、リスクや不確実性を含んでおり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。従いまして、これらの業績予想のみに全面的に依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。